平成30年度島根大学大学院

教育学研究科入試問題（Ⅰ期）

《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》

専門科目

注　意

1　問題紙は，指示があるまで開いてはならない。

2　問題紙２枚，解答用紙２枚，下書き用紙１枚である。
指示があってから確認し，解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。

3　解答は，解答用紙に清書すること。

4　問題用紙は，持ち帰ること。

《教育実践開発専攻》

専門科目　問題紙１

1. 以下の（1）から（6）の文章の（ ア ）～（ シ ）に当てはまる語句を答えなさい。

(1) 教育基本法の第四条は（　ア　）とそのための公的責任について定めたものであり，憲法第二十六条に規定される（　イ　）を同法第十四条第一項の「法の下の平等」に即して具体化したものであると位置づけられる。

(2) 小学校は，文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について（　ウ　）を行い，その結果に基づき学校運営の改善を図るために必要な措置を講ずることにより，その（　エ　）の向上に努めなければならない。
(学校教育法第四十二条)

(3) 障害者の権利に関する条約の「第二条　定義」においては，「合理的配慮」とは，「障害者が他の者との平等を基礎として（　オ　）及び基本的自由を享有し，又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって，特定の場合において必要とされるものであり，かつ，均衡を失した又は（　カ　）を課さないものをいう。」と定義されている。

(4) ESD（Education for Sustainable Development）とは，現代社会の課題を自らの問題として捉え，身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより，それらの課題の解決につながる新たな（　キ　）や行動を生み出すこと，そしてそれによって（　ク　）な社会を創造していくことを目指す学習や活動である。

(5) 評価機能のうち，実践の始めに行い，学習者がどの程度のレディネスを備えているかを評価するものを（　ケ　）という。また，実践の途中に行い，指導計画の修正や補充的指導に活用するための評価を（　コ　）という。

(6) （　サ　）は，他者の行動や特性をモデルとしてそれらを習得（学習）することを指し，アメリカのバンデューラが命名したもので観察学習とほぼ同義である。バンデューラは，学習は学習者自身の実際の経験を通してのみ成立するという伝統的な学習理論に対して，学習は他者が何かを行うのを観察しているだけでも成立するという（　シ　）を提唱した。

《教育実践開発専攻》

専門科目　問題紙 2

2. 以下の（ア）～（エ）について，いずれかの語句を一つ選び，簡潔に説明しなさい。なお，選んだ語句を解答用紙に記入しなさい。

（ア）
(1) 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」
(2) 主権者教育

（イ）
(1) ポートフォリオ
(2) ルーブリック

（ウ）
(1) ブレイン(ブレーン)・ストーミング
(2) KJ 法

（エ）
(1) オープン・スクール
(2) 義務教育学校

3. 以下の問いに答えなさい。

(1) 平成 29 年 3 月に告示された新しい幼稚園教育要領，小学校ならびに中学校学習指導要領において，「カリキュラム・マネジメント」の重要性が述べられている。この「カリキュラム・マネジメント」について，次の二つの語句を用いて説明しなさい。

（　学校教育目標　・　PDCA　）

(2) 平成 11 年 12 月の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」において「キャリア教育」の必要性が提唱されて以降，小学校，中学校，高等学校等における「キャリア教育」の重要度が増してきている。そのような中で，「キャリア教育」において身に付けさせたい資質・能力を一つ上げ，その資質・能力を育成するための取り組みについて具体的に述べなさい。